経済統計a:第14回

担当教員　黒田敏史

今週の内容

- 前期のおさらい
- レポート講評

前期のおさらい

- 景気統計
- SNA統計
- 物価統計
- 人口統計
- データの身近な分析方法
- グラフと印象操作
- 労働統計
- 世帯統計

前期のおさらい

- 景気統計のポイント
  - 季節調整（前年同期比、季節調整法）
  - GDP前期比とGDPギャップ
  - 景気と在庫循環のサイクル
  - 景気動向指数（先行、一致、遅行）

前期のおさらい

- SNA統計のポイント
  - 付加価値と発生主義
  - 成長に対する要素寄与度
  - 所得、可処分所得、調整可処分所得
  - 資本調達勘定
  - 海外勘定（経常勘定、資本取引、金融勘定）
  - ISバランス論
  - GDPデフレータ

前期のおさらい

- 物価統計
  - 物価指数の対象領域
  - CPIとGDPデフレータの差
  - ４つの総合指数（ラスパイレス、パーシェ、フィッシャー、連鎖指数）とパーシェ・チェック

前期のおさらい

- 人口統計
  - 人口変化の要因（自然増加と社会増加）
  - 国勢調査と住民基本台帳人口要覧
  - 高齢化率・従属人口比率
  - 平均余命、
  - 出生率、合計特殊出生率

前期のおさらい

- データの身近な分析方法
  - 各種代表値の考え方（平均、中央値、その他）
  - 散らばりの考え方（範囲、標準偏差）
  - ローレンツ曲線とジニ係数
  - 分布の偏り
  - 変化率と構成比
  - 弾力性と寄与度

前期のおさらい

- グラフと印象操作
  - 相関と因果関係の違い
  - 正しいグラフの書き方
  - 印象操作に用いられるグラフ

前期のおさらい

- 労働統計
  - 労働力の定義
  - 失業者の定義
  - 失業の深刻さの程度
  - 賃金（基本給と諸手当と現物給付）
  - 労働時間統計

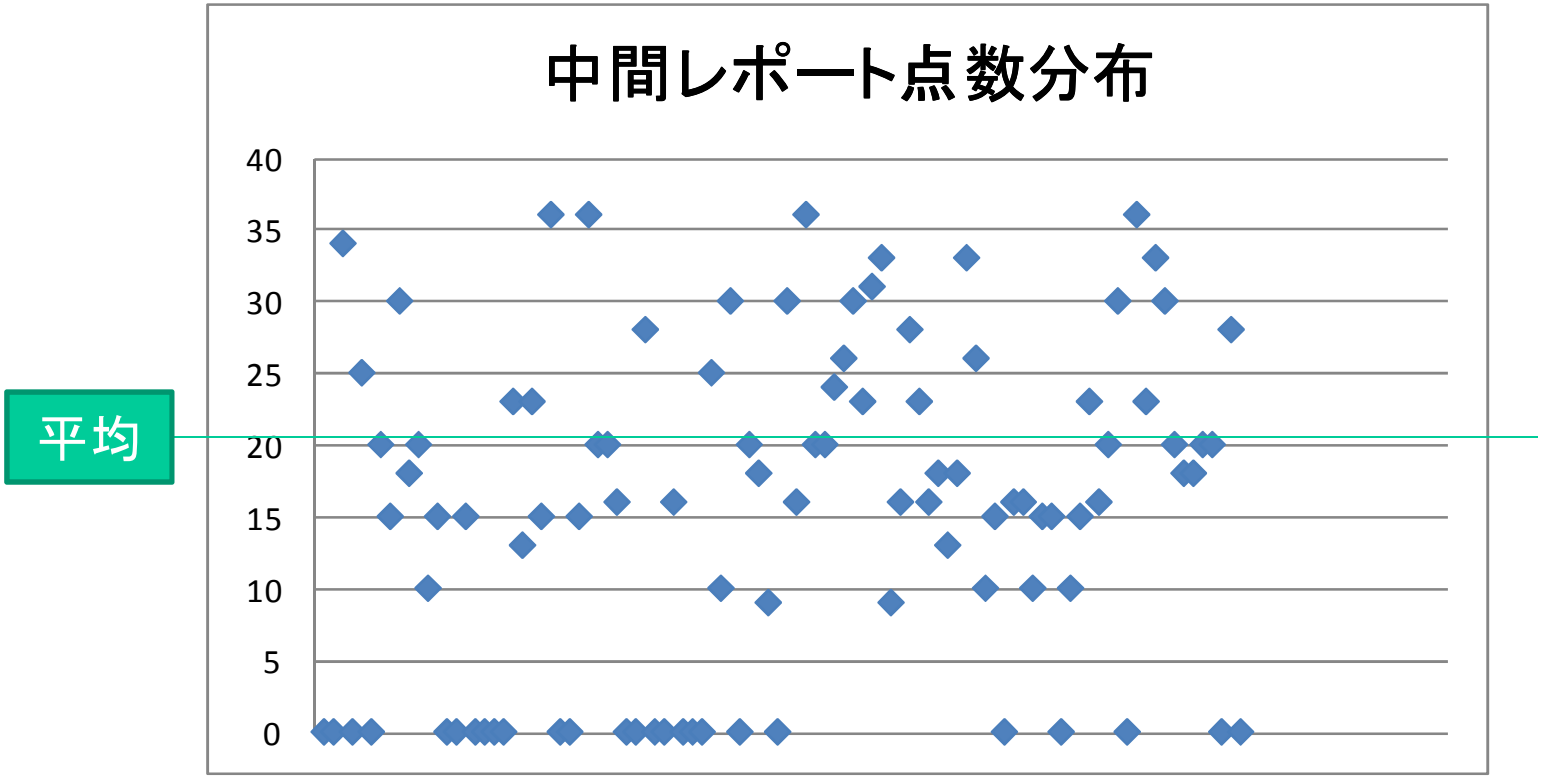
前期のおさらい

- 世帯統計
  - 家計調査のサンプリング方法（層化三段抽出）
  - 家計調査の世帯分類
  - 平均消費性向、エンゲル係数
  - 経済学上の貯蓄と家計調査の黒字率、貯蓄率
  - 需要側データと生産側データ
  - 住宅統計
  - 帰属計算

今週の内容

- 前期のおさらい
- レポート講評

レポート講評



- 履修者98名、提出者72名
- 範囲0-36、平均16.35、提出者平均21.13
- 60%(24点)取得者数、23名

レポート講評

- よくあるミス
  - １：物価統計と景気水準
    - 近年の物価と景気の関係を見て、「景気が悪化すると物価が下落する」と解釈したレポートが複数
    - ここに因果関係はあるか？
    - 妥当な解釈：マクロ経済学のAD-AS分析を用いて、石油価格上昇によるコストショックによって総供給曲線が上方にシフトしたと考えるのが妥当
    - 従って、物価上昇は景気の結果ではなく、景気変動の原因である

レポート講評

- よくあるミス
  - ２：経済成長と人口
    - 「GDPの成長」について
      - 「GDPの成長」であれば、総人口の増大が総需要・総供給を減少する事はまず無いため、総人口の増加はGDPを増やす
      - 他方、生産の上限が生存可能な人口を規定するという長期的な人口決定要因から考えれば、GDPは人口の上限を規定する
      - どちらも、正の相関をもたらすと考えられる
    - 「一人あたりGDPの成長」について
      - 「一人あたりGDP」であれば、増加する人口が生産年齢人口なのか、それとも従属人口なのかによって影響が変わるだろう
      - 「高齢化」であれば、人口に占める従属人口の割合が増加し、需要の増加に対して供給の増加が伴わないため、「一人あたりGDP」は減少するはずである

レポート講評

- よくあるミス
  - ２:経済成長と人口
    - 次元の異なるものの比較（総量と割合）
      - 「出生率と女性の労働者数」の比較を行っているレポートがあった
      - 「出生率」は人口に対する出生の割合、「女性の労働者数」は女性の労働者の数であり、前者は社会情勢が変わらぬまま人口が100倍になっても一定であり得るが、後者は社会情勢が変わらぬまま人口が100倍になれば100倍になろう
      - 従って、社会情勢が変化が無くともこれら2つの値の関係は変化するため、社会情勢の分析を行うには不適切な比較である
      - 社会情勢の分析として適切な比較は、「出生率」と「労働者に占める女性の割合」などの総人口の影響を調整した値であるべき
      - 総量が変わることで割合がどう変化するかという、総量と割合の関係に関心がある場合であれば、人口と出生率や人口と女性の労働者数、等の比較が関心の対象となろう

レポート講評

- よくあるミス
  - ２：経済成長と人口
    - 次元の異なる者の比較その2（成長率とストックの比較）
      - 「経済成長率」と「高齢化率」を比較しているものがあった
      - どちらも率であるが、前者は「変化率」であり、後者は「構成比率」である
      - 比較をする際に、時間の取り方の異なる2つの変数で比較をすると、時間の取り方の違いを考慮して解釈をしなければならなくなるため、時間の考え方の等しい2つの変数で比較をすることが望ましい
      - 例えば「経済成長率」と「高齢化率の前年同期比」、もしくは「GDP」と「高齢化率」であれば、時間の考え方が一致している

レポート講評

- よくあるミス
  - ２：経済成長と人口
    - 現在の値と予測値
      - 国立人口問題社会保障研究所の「将来人口推計」を用いて分析を行っているレポートが多数あったが、これは人口の予測値であり、実際の値ではない
      - 将来の見込みを分析するのであれば、将来予測を用いるのが妥当であるが、過去のGDPと比較を行う等過去のデータと比較を行うのであれば、過去の実際の人口のデータを用いるべき

後期の内容

- テキスト9～12章
  - 各章テキスト解説＋データ紹介の2週で1章のペース
  - 9章企業活動統計
  - １０章財政統計
  - １１章金融統計
  - １２章対外バランス統計
- その他経済分析を行うためのデータ
  - アンケート調査の方法、分析方法
  - 国際機関統計（世界銀行、IMF、ITU等）
  - 業界団体の統計
  - 市場調査データの読み方